

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101488		
法人名	株式会社 ライフセーバーコーポレーション		
事業所名	グループホーム ミントとやま		
所在地	青森市戸山赤坂463-3		
自己評価作成日	平成24年7月20日	評価結果市町村受理日	平成24年11月

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者は地域の行事に積極的に参加し、地域の中に溶け込んで生活している。 介護度の高い利用者が多く入所している中、近い将来、スムーズに看取り介護ができるよう、日々勉強する機会を設けている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が住み慣れた地域でその人らしい生活を送れるよう、町内会、子供会、学校、幼稚園等の行事等を通じ、地域に生活している様々な年代の人達との地域交流を大切にしている。 ホームの運営面においては職員の人材育成に力を注いでおり、個人面談を定期的実施することにより、職員の意見や考え方を取り入れた個別研修計画を作成する等、職員の質の向上と働く意欲につながるよう取り組んでいる。 また、職員同士のコミュニケーションも良く、連携しながら支援に努めていることから、利用者は落ち着き、ゆったりとした毎日を過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を作成している。カンファレンス時等、様々な場面において、理念の意味合いを再認識できるような話し合いを行っている。	「利用者は、私達の人生における大先輩である。」ことを念頭に、ホーム独自の理念を掲げている。利用者が住み慣れた地域で、その人らしい生活を送れるよう、管理者以下職員全員で理念を共有しており、理念を意識したケアサービスの提供を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会の廃品回収の協力や各行事へ参加するのは勿論、それらの事前の手伝いにも参加する等して交流している。	町内会や子供会、中学校、幼稚園等、地域と積極的に関わるように努めており、行事や廃品回収等の活動を通じて、地域の中に溶け込めるよう交流を図っている。また、普段から近所の住民が野菜やタオル等を差し入れてくれたり、利用者の散歩時にも温かい言葉をかけてくれる等、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各学校、事業所より、実習生やボランティアを受け入れており、その際は、細部にわたり、指導や助言をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーの方々から様々な意見を出していただけるような雰囲気作りを心掛けている。また、そこで出た様々な意見や情報を得て、ホームの運営や仕事に結びつけている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、会議においてはホームの運営状況や自己及び外部評価結果等を報告している。できる限りホーム側からも様々な報告をしながら情報を提供し、参加者からはその都度意見等をいただき、ホームの運営に役立てるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず地域包括支援センターの職員が参加している。市の職員が参加できなかった際は報告書を提出し、運営上のわからない事等を聞くことができる、良好な関係を築いている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が毎回参加しており、適宜アドバイスをいただいている他、ホームのパンフレット等を配布して、ホームの実態を理解してもらえように取り組んでいる。また、市担当者とは困った事があれば、いつでも相談に応じていただけるような関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホール入り口のドアに鈴を付け、出入りが分かるよう工夫しており、施錠はしていない。	身体拘束については、管理者以下職員全員が理解しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、現在は外出傾向の利用者はいないが、その傾向が見られた際にはいつでも職員が寄り添う等の支援をしている他、利用者の無断外出時に備え、近隣住民から協力が得られるよう、日頃から働きかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職員に周知している。また、カンファレンス時等、折に触れて話し合う場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修を通し、理解するように努めている。今年度中に運営推進会議の場で、地域包括支援センターの職員による勉強会を実施する予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分な時間をとり、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内外の苦情受付窓口があることを入所時に説明したり、定期的にホーム便りに掲載している。	玄関に意見箱を設置し、普段から利用者や家族が苦情や意見を出せるようにしている他、重要事項説明書に内外の苦情・相談窓口や苦情処理の手順等を明示している。また、利用者からは日常生活(動作、表情、言動)から意見等を察すると共に、家族からはホーム来訪の際にさりげなく意見等を把握できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行っている。	ユニット毎に月1回の職員会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、定期的に個人面談も実施しており、ホームの運営に職員の意見も十分反映されるような取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、健康診断を行い、健康管理に努めたり、随時、就業規則の見直し等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合わせた研修計画を立て、個々の力量での向上を図れるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地域圏域内(8ヶ所)のグループホームが集まり、定期的に勉強会を行っている。当ホームからも毎回参加し、交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人に直接会い、面談を行っている。その際、本人、家族、関係者から十分な情報を得るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階から、本人や家族からの聞き取りを十分に行い、入所するまで、定期的に連絡する等して、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線に立ち、声掛けや行動をするように心掛けている。家事作業等を出来る方とは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た際は、随時、ホームでの様子を報告している。また、家族にも相談にのっていただき、助言を聞きながら、日常生活のケアに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人が面会に来た際は、ゆっくりした時間を過ごせるよう、場所をセッティングしている。また、交通手段がない方へは送迎をしており、馴染みの方との関係が途切れないよう支援している。	入所時のアセスメントにより、利用者の生活歴や趣味等を把握している。利用者基本台帳に記載された情報や家族等からの情報も参考にしながら、利用者がこれまで関わってきた大切な人や馴染みの場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の場において、職員が利用者同士の間に入り、良い関係を築けるように見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、「契約が終了しても、いつでも相談や支援に応じる」旨を伝え、関係性の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接的な訴えは少ないので、表情や行動から把握したり、どのように暮らしたいかを理解するために、家族の意向を聞きながら、把握に努めている。	日常生活の中での気づきや家族等からの情報により、本人の立場に立った意向の把握に努めて、その人らしい支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取りをするのは勿論、入所後も、家族や知人等が来所した際、少しずつ聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や体調の変化を見逃さず、日誌に記入し、全職員がそれを把握している。また、カンファレンス時、一人ひとりの有する力等について検討し、把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンス時、利用者の課題とケアのあり方について職員間で話し合い、作成している。	職員は担当している利用者についてできる限り細かいところまで把握するように努め、介護計画に反映させている。また、他職員や家族の意見等も参考にしながら、全職員で話し合い、個別に介護計画を作成しており、通常は3ヶ月に1回のモニタリングを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の普段と違う変化等、個人記録や業務日誌に記録として残し、全職員に確認後、サインしてもらう等している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が家族と外出する際、車椅子の方にはホームの車で送迎する等、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員にも参加していただき、話し合いの場を設けている。また、時々交番を訪問し、パトロールの強化をお願いしたり、利用者が安全な生活を送れるよう、協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、ホーム利用前からのかかりつけ医の医療を受けられるように支援している。訪問診療に来てもらうケースがほとんどだが、複数の医療機関との連携を密にしている。	これまでの受療状況を把握しており、本人や家族が希望する医療機関に受診できるよう支援している。また、訪問診療も行われており、受診結果については、家族にその都度連絡する等により、情報の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結び、週1回訪問してもらっている。気軽に相談できる関係を構築しており、医療機関との連携もスムーズにとれるような体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に見舞いに行き、その都度、病院関係者との情報交換を密に行っている。ホーム内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるよう、話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての方針を明確にし、入所時等に説明している。また、医療機関との連携もスムーズに行えるよう、良好な関係作りにも努めている。	ホームとしての重度化(看取り)への対応方針を明確にしており、マニュアルを作成し、入所時に十分な説明をしている。また、普段から医療機関と連携を密にすると共に、本人や家族の意向を尊重した対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員に周知している。また、年1回は救命講習を受講できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。その際、非常持ち出しの点検や確認も行っている。	年2回、夜間も想定した避難訓練を実施しており、消防署の立ち会いや駐在所の協力を得られるような体制を構築している。また、災害時に備え、3日分の食料品等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの基本理念にも掲げているように「人生の大先輩である」ことを念頭に置き、尊敬する気持ちでケアしている。	「利用者は、私達の人生における大先輩である。」という理念の下、深い愛情と信頼をもって、利用者一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている。また、常に利用者を尊重したケアサービスに努めており、プライバシーや羞恥心に配慮した声掛けや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が困難な方への対応は、会話の中から表情を読み取る等して、自己決定できる場面を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴時間等を職員側の都合で決めるのではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせ、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や整容の乱れにはさりげなくサポートしている。また、行事の際は、女性の方には薄化粧を施す等、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを一緒にできる方が年々少なくなっているのが現状である。介助が必要な方も多いが、極力、同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事するように心掛けている。	簡単な食事の準備等は無理には勧めることなく、手伝いができる利用者と一緒にやって行っている。また、職員は利用者の傍にいて、会話を楽しみながら、食べこぼし等のサポートを行い、楽しい食事時間となるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量を記録にも残し、把握している。その方の嚥下機能により、食事形態を変えたり、随時、見直しをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守り、介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を用いる等、排泄パターンの把握に努めている。それによって事前誘導を行い、失敗を防ぐと共に、使用枚数を減らすように努めている。	個別に「ADLチェック表」や「利用者基本情報」に記録し、把握している。また、失禁等がみられた場合は、他の利用者に気づかれないように、配慮した対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を増やしたり、食事内容を見直す等、改善を図っている。また、訪問看護時、その方に合った改善策を助言していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	概ね週2回の入浴であるが、希望により、回数を増やしたり、シャワー浴を取り入れている。	週2回の入浴日を基本としているが、健康状態や希望に合わせて入浴ができるよう配慮している。また、入浴を拒否する利用者に対しては無理に勧めず、言葉掛け等でタイミングを計りながら誘導し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を見極め、個々に合わせた休息時間を取り入れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全利用者の薬の内容を把握できるよう、個々の薬箱に内容を入れ、薬が変更になった際も、全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好や力量を全職員で共有し、個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課である散歩は勿論、買い物等の希望があれば、その都度、対応している。	利用者の高齢化が進み、外出を面倒に思う利用者もいるが、できる限り、散歩や買い物に出掛けられるように支援している。また、次回も外出したくなるような言葉掛けや対応を工夫しており、外に出ることで利用者の気分転換を図れるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム側の立て替になるものの、支払いの際には本人が支払えるよう、さりげなく支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人からの電話を取り次いだり、手紙の場合は代筆やポストへの投稿等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて調度品を変え、季節感を出すような工夫をしている。	ホーム内には利用者が手作りした折り紙の作品を飾っており、家庭的な雰囲気や季節感を醸し出している他、窓からは外の庭木や畑等も見え、季節の移ろいを感じることができる。利用者同士の会話や職員の声、テレビの音等も騒がしくなく、遮光、温度、湿度も適切に管理しており、居心地の良い空間となるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや1人がけの椅子の設定場所に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、自宅で使用していた家具等を持ってきていただけるよう、お願いしている。家族が持って来られない場合には、ホームの車で取りに行く等、支援している。	居室には入所前から慣れ親しんできた物を持ち込んでおり、馴染みの生活ができるように支援している。また、配置場所等についても、利用者本人が使いやすいよう、本人の意見を尊重しながら、居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、手すりや浴室等の環境が整っているか、カンファレンス時等に検討し、その都度見直しを行っている。		